

— セント・ルカ産婦人科 —

ルカ新聞

 No.4
 2001.12.


元旦のモルゲン・ロート (アンナプルナ・ネパール)

向 日 葵

善きサマリヤ人

2001年9月11日は全世界中にとつて忘れられない日になりました。ライブでハイジャック2機目がWTCビルに突入するのを見たからです。その悲惨さは今、12月になっても生々しく思い出すほどです。その後の2、3日は「単怯なテロには負けてならない、やられたらやり返す、正義の戦争をすべきだ」などと考えていましたが、何か少し違う感じも同時に心の底に存在していました。そしてその次の日曜日、日本ルーテル大分教会で浅見正一先生はお話の最後に「彼らをあのようなところまで追い詰めたものは何なのか考えねばならない」といわれ、はっと思いました。イスラム原理主義は以前からなるほどテロ集団として有名でした。しかし彼らも好き好んでテロを行い、死ぬわけではないでしょう。その理由は今では一部で言われるようになった西洋社会の価値観がイスラム社会を虐げてきたことに根本原因があり、やむを得ずあのような行動に走ったと思います。

ルカ福音書10章27節以下、有名な「善きサマリヤ人」の話があります。「自分のように隣人を愛しなさい。」といわれたイエスは「隣人とは？」との問いに、たとえを答えて言われています。あるとき、旅人が追いはぎに会って身包みはがれ、重傷を負って倒れていた。そこに通りかかった祭司やレビ人は傷ついた旅人を避けて通った。そして普段は彼らからさげすまれ、差別されているサマリヤ人が哀れな旅人を助けた。この祭司とレビ人とサマリヤ人と誰が旅人の隣人と思うか、とイエスは問われています。普段は聖書の番人として政や神殿の行事を司つて尊敬されている祭司や、聖書の律法に基づいた敬虔な生活をしていると思われているレビ人たちよりも、常日頃は異教の世界に生きているため深いとされ、軽蔑されていたサマリヤ人のほうが「善き隣人」として認められたのです。

異なった価値観、文明、教え、社会環境を理解することの困難さをイエスはまはるこのようにして教えてくれました。私たちはもう一度世界の歴史を勉強し直し、何がその根っこに横たわっているのかを自分なりに見つける努力をしなければなりません。そのときにこの「善きサマリヤ人」のたとえ話は大きな手助けになるでしょう。

院長の意見

院長 宇津宮 隆史



不妊症診療に於ける問題点は今までいくつかの論文や講演、学会発表などで世間にアピールしてきました。最近では不妊症診療に関心を持って積極的に取り組んでいる産婦人科医が、各県あたり2～3人はいるという状況になってきました。そしてお互いに不妊学会や産婦人科学会などで顔をあわせるたびに情報交換をし、少しでも進んだ治療法を手に入れようと虎視眈々としているという状況にあります。そこで最近、語られている問題点は、不妊治療の保険適用もさることながら、不妊診療の多様性です。つまり、他の疾患では考えられないほどにいろいろな職種の職員が必要ということです。

受付、ナースはともかく、体外受精において、採取された精子や卵子を高度なテクニックで受精させ、育て上げる「エンブリオロジスト」、特に顕微授精ではその「腕前」が施設の妊娠率に大いに影響します。このエンブリオロジストは何も専門の養成課程を卒業しているわけではありません。彼女らは当院に就職して改めて不妊症について院長である私から何度も教育を受け、さらにひとつずつの段階をおって先輩にそれこそ手を取られて教えてもらい、少しずつ成長してゆくのです。顕微授精まで安心して任せられるには最低、2年はかかります。不器用なら最後まで任せられない場合もあります。このエンブリオロジストの養成が大きな課題です。

また、そこまでしてできるようになった顕微授精のテクニックを得た彼女らの正式な「資格」は何もありません。よって身分の保証もないということです。しかしこの技術は今述べたように「特殊技能」です。ゆえにしかるべき機関（たとえば日本産婦人科学会、日本不妊学界など）が身分保証のため、正式に「資格」を認定すべきです。できればエンブリオロジストの養成を行うコースも作成するこ

とです。さらに「卒後研修」や「資格更新のための研修」なども必要です。これらは欧米ではとっくに実行されています。日本でもエンブリオロジストの養成を行い、資格を与え、その身分を保証する、これらのシステムを早急に作ってほしいと思います。それが直接、患者さんの喜びにつながるからです。エンブリオロジストの資格については、来年春から哺乳動物卵子学会が中心となって資格認定を行う予定になったことは喜ばしいことです。

次に、不妊症の患者さんに当院では今まで数多くの参考意見を聞いてきました。いわゆる「質問紙調査」です。それらはすでに20編あまりの論文になりました。その一部は外来待合室に置いてありますから読んでください。また、学会発表のたびにその内容を院内に掲示していますので注意してください。

さて、その研究の結果、患者さんは多くの悩みを抱え、いろいろな困難を乗り越えることができずいたり、なかには他人に言えない悩みのために体の調子を崩した経験のあるケースまで見られました。そこで当院ではその悩みの程度、種類を分析してみたところ、62%が専門の心理学的な知識を持った「心理士」の対応すべきケースというこ



とがわかりました。この「不妊症で悩む」気持ちがそれほど強いということは同じ産婦人科であっても不妊症を勉強したことのない医師はほとんど理解していません。また患者さんの悩みを聞いてあげるとい意味でナースが不妊症診療を勉強して「不妊カウンセラー」などと称している場合がありますが、われわれの経験ではこのような患者さんの悩みを本当にカウンセリングできるのは大学で心理学を学び、その解決テクニックを持っている専門の「心理士」しかないと思っています。実際、何度、体外受精を行っても妊娠しなくて悩んでいる患者さんや、ご主人との間の問題を抱えている方を当院の「心理士」に任せたら見違えるほどの効果が得られました。この「心理士」の資格を持っている人は全国で数千人いるとのことですので、こちらからこれらの実情を紹介し、声をかけ、不妊診療に関心のある心理士のネット・ワークをつくる、などの運動をすれば、そのうち何人かは本当に女性の味方になってくれるでしょう。

そして不妊診療クリニックのナースはその立場上、いろいろなデータや知識を得る機会を持っていますので患者さんのためにさらに専門的に不妊症を学び、いわゆる「不妊診療コーディネーター」または「不妊コンサルタント」と



パリ シャンゼリゼ通りにて

して患者さんのガイド役を勤め、いろいろな情報を与え、さらにそのナースの目でもってスクリーニングを行う。そして心理的支援が必要な患者さんを見つけたら専門の「心理士」に任せるとというのが理想的なシステムと思います。

カウンセリングは高度の専門知識が必要で、「日本カウンセラー協会」の資格試験では毎年合格率は20%以下といわれるほど厳しいものです。ここでカウンセラー協会に対し、不妊診療の手助けをお願いしなければならない時期にきていると思います。ヨーロッパ不妊学会には医師やエンブリオロジストの団体に加え、このカウンセラーの団体も重要なメンバーとして参加しています。日本も早くそのような体制を作る必要があると思います。

♥ 受付から ♥

待合室が新しくなりました。

皆様方には暑い時期に仮設の待合室や受付で大変ご不自由をおかけ致しました。

今回新しくなった待合室に入りますと、すぐ左に新しい患者さんの為の説明コーナーや簡単なカウンセリングのできるコーナーが設けられました。

頭上2ヶ所に取り付けられた液晶テレビの画面からは待ち時間を少しでも快適に過ごして頂く為に美しい山や海、花などを流し時折『赤ちゃんが欲しい!講座』の講演や不妊治療についてのビデオなども交えています。

受付の前にある壁は、今までここで妊娠し、寄せられた赤ちゃんの写真を飾らせて頂いていますが今回ここに1枚でも多くの赤ちゃんを……と院長をはじめスタッフ全員の願いを込めて大パネルを設置いたしました。

掲示物なども皆様方にお知らせしたいものが多くあり、来院時には目を通して帰られることをお勧めいた

します。

新しい待合室、新しい受付と建物も変わり、私共スタッフの気持ちも建物同様一新して頑張っていくつもりでございます。

何かご不自由な点やお気づきの点がございましたらスタッフにお声をかけて下さい。



🌸 看護婦だより 🌸

皆様、いつもアンケートへのご協力をありがとうございます。

前号より、皆様にご協力頂いたアンケートをもとに学会等で発表させていただいた内容のご紹介をしております。今回もこの秋の新作をお届けいたします♪

不妊症患者に対するサポートのあり方

看護部：實崎 美奈

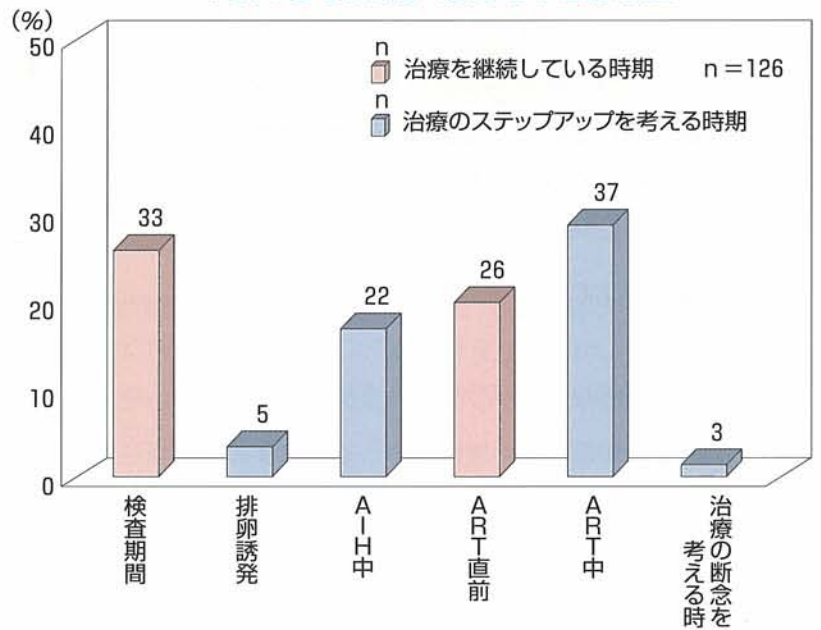
看護部では毎週土曜日の午後に予約制で「なんでも相談」を受けています。今回はその「なんでも相談」を利用された患者さんの背景と内容を検討してみました。

治療のステップアップを考える時に相談に見える方が多いことと、相談の内容には看護部では対処でき難いものが意外に多かった（約62%）のが印象的であり、カウンセリングの専門家とのタイアップの必要性を感じました。

ルカでは今春より火・木・土の週3日、心理士の上野先生に来て頂いています。現在のところ、患者さんのカウンセリングよりもスタッフのカウンセリングに忙しいのでは？との噂もちらほら。突然「カウンセリング」というのも少し抵抗があるかも知れませんが、ちょっと気分が落ち込んでしまったとき、診察帰りに気分転換したい時など気軽にスタッフまでお知らせください。

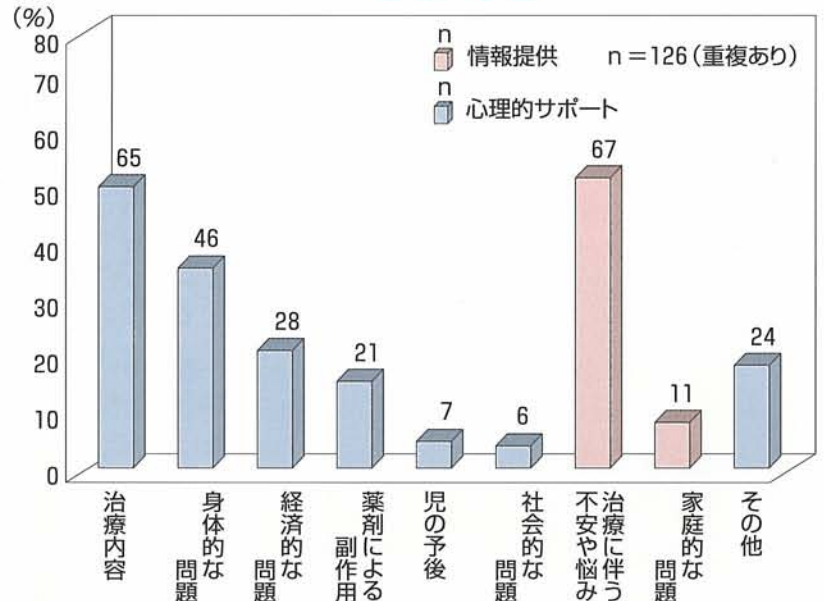


「なんでも相談」利用時の治療段階



治療のステップアップを考える時期の利用率が高いようです
 AIH：配偶者間人工授精
 ART：体外受精など高度先進医療

相談内容



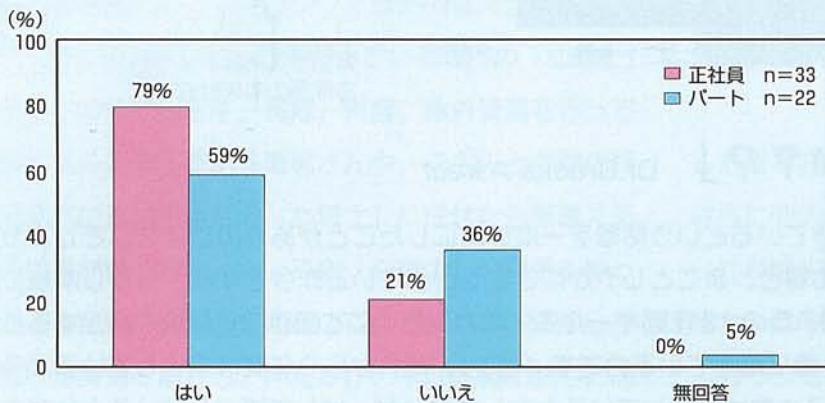
ピンクの部分は全体の62%を占めていました

仕事と不妊治療を両立させている患者さんの現状について

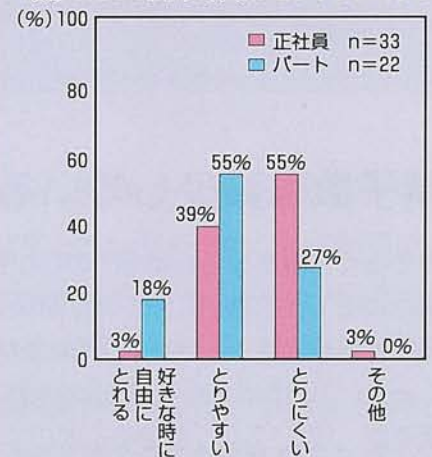
看護部：柴田 令子

働きながら治療を受けることを、正社員の多数がストレスと感じており、更にその事が、妊娠の妨げとなっていることを危惧している反面、上手く両立できれば、どちらも続けたいと考えていました。

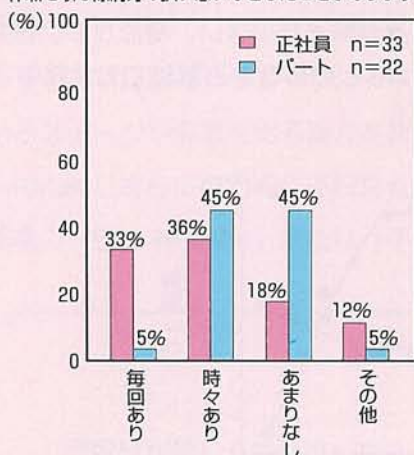
職場の上司に治療のことを相談していますか？



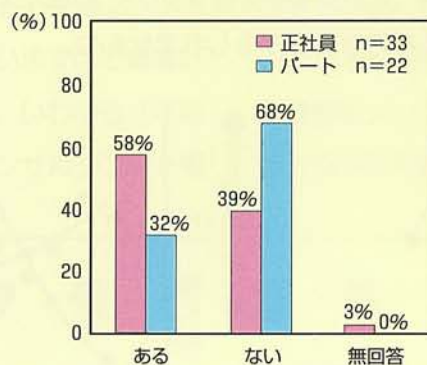
治療のための長期の休暇はとりやすいですか？



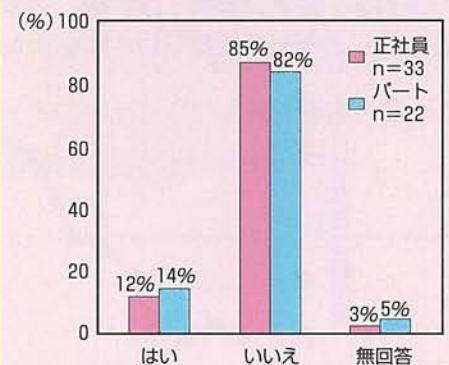
休暇を取る際肩身の狭い思いなどしたことがありますか？



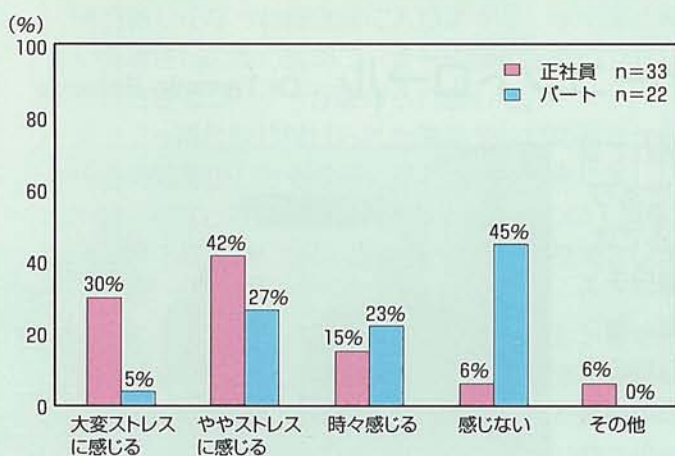
仕事と治療を両立しているため妊娠しないと思ったことがありますか？



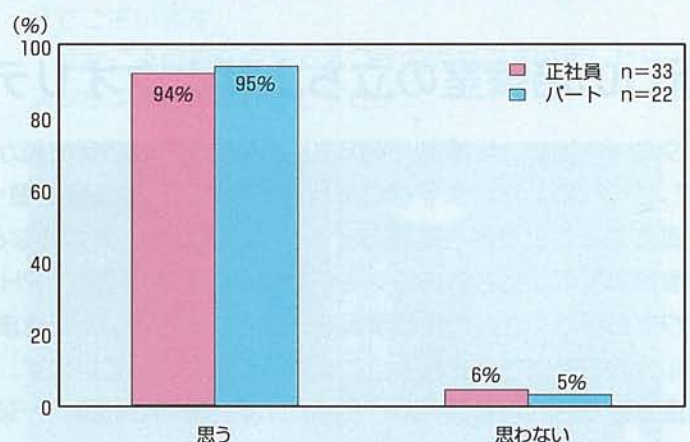
治療に専念する為仕事を辞めようと思っていますか？



仕事と治療の両立はストレスになりますか？



仕事と治療を両立できればどちらも続けたいと思いますか？



その結果、特に正社員で職場への告知率が高く、職場に理解を求めようとする傾向が強いようです。

仕事と治療を両立させるためには、どちらの妨げにもならないように、時間を工面出来ることがポイントですが、それは大変難しい事である為、夕方の診療など、医療側のサポートも必要です。

❀ 研究室だより ❀

2001年11月13日、アメリカ・カンザス大学よりキール先生とタミー先生がセント・ルカ産婦人科に来られ、セント・ルカミニセミナーが開かれました。今回はその内容を一部ご紹介したいと思います。



キール先生とタミー先生



カンザス州はアメリカ合衆国の中央付近です

「精子数は減少しているのか??」 Dr. Brooks A. Keel

おそらく、皆さんも近年精子の数が減ってきているという話題を一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか？環境ホルモンの影響やストレスが関係している等と、まことしやかにささやかれている昨今ですが、しかし本当に精子は減っているのでしょうか。1984年から1997年の13年間キール先生はカンザスにて調査を行いました。するとどうでしょう、1988年から1993年の間には約2倍に増えているのです(図1)。それから3年間は減少しているように見えますが、「長いスパンで見ると波のように精子の数は増減しているかもしれないが、決して減少しているとは考えられない」とのことでした。

しかし、精子は暑さに弱いそうです。気温が上がれば精子数は減少する傾向がみられます(図2)。当院での質問調査にても、職場で高温に5時間以上いる4人中3人が、精液所見に異常(数が少ない、運動精子が少ない、奇形が多い等)が見られています(当院：研究室 高野陽子 アルメイダ医報 Vol.25, 2000)。サウナなどの影響は当院にても調査中ですが、熱いお風呂が好きな旦那様は少し控えた方がいいかもしれませんね。

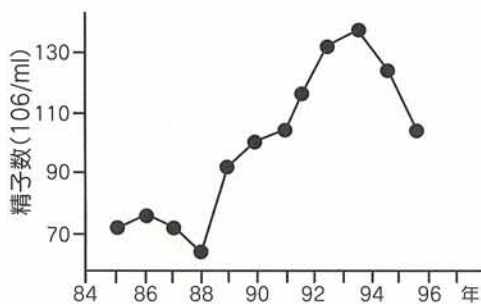


図1 精子数の変化

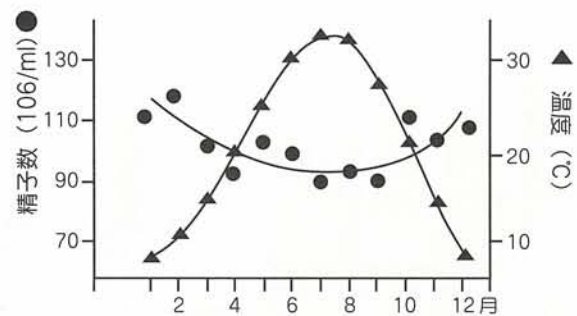


図2 温度と精子数の関係

新しい培養室の立ち上げとクオリティーコントロール Dr. Tammie Schalue

タミー先生は、培養室(研究室)運営に関する項目に細かく触れて講演してくれました。まずなにより重要なことは培養室で働く人であり、正直であることが最も重要だと言っていました。具体的などころでは、培養室内は陽圧にし外の空気をいれない、温度、湿度、PHは毎日チェックする等たくさんの注意事項を一つ一つ挙げていただきました。セントルカの培養室でもそれら全てを毎日チェックしています。難しいのは正直であることもかもしれませんが、まず物理的に間違いが起こらないような環境にする事(一つのクリーンベンチ内では一人の精子しか扱わない等)を実行し、少しでもひやっとする事があれば報告し、改善策を話し合っています。そして、個人の失敗ではなく研究室スタッフ全員の責任として週に一度のミーティングで報告しています。



キール先生とタミー先生に、研究室内をチェックして頂きました。

北海道エキゾチック旅行

今年度のルカの慰安旅行は1班北海道スキー・スノーボードツアーコース2班豪華グアムコース3班豪華湯布院コース4班北海道エキゾチックコースと4班に分かれてそれぞれ好きなコースを選択する事ができました。

私達4班コースは8月始め、大分は30度以上の猛暑でしたが北海道は19度と涼しささえ感じる程の気候で始まりました。北海道と言えば三大夜景と言われる函館山の扇型の夜景はそれは感動でした。夕食は名物のカニ料理です。美味しかったでーす。

翌日は、大沼公園、昭和新山を見学し札幌へ。札幌の町は、やっぱり広がったでーす。白老ポロトコタン、小樽運河、裕次郎記念館と楽しい旅でした。広い大地に感動し美



味いしい物を食べ最高に幸せでした。院長・奥様、北海道の豪華な旅行をありがとうございました。



情報処理室 佐藤 順子

未知の分野にはじめの一步を踏み出し、お勉強と新しい発見の毎日です。

目指すは、産婦人科情報処理のエキスパート♪
よろしくお祈いします。



看護部 永石ヨシ子

新しい分野なので勉強させてもらう事ばかりです。

平均年齢を上げてしまいましたが、先輩方の若さを吸収しながら足手まといにならない様、頑張りたと思います。

NEW職員紹介



検査部 友永 寛

(1967年7月6日生：34歳)

食品メーカーのバイオ関連の職に8年半在籍して、ハムスターテストという精子の受精能力を見る検査を行ってきました。企業での色々な経験を生かし、研究室、また病院の戦力の一翼を担って行くようになりたいと思っています。(ドライブやサイクリングなど、“運転”する事が大好きです。) よろしくお祈い致します。



看護部 工藤いずみ

産科は初めてで、看護の経験もあまりないのですが、S36年生まれの40才です。

硬い頭をほぐしながら頑張っ
て行こうと思います。



看護部 篠田多加子

体力と腕力(?)には自信があります。宜しくお祈いします。

2001年を振り返って

7.2	新職員 工藤いづみさん(看護部)竹本ふじみさん(看護部)	10.6	第4回IVF研究会/日本臨床エンブリオロジスト研究会(兵庫) 参加<佐藤晶, 佐藤千, 公文, 院長>
7.7	大分県内視鏡手術研究会について(大分)講演<院長> 「腹腔鏡における循環動態について」	10.9	新受付・待合室完成 引越し
7.8	大分県女性薬剤師会例会(大分)講演<院長> 「女性の気をつけるべき疾患」参加<磯崎, 指山>	10.13	第8回赤ちゃんが欲しい講座(大分トキハ会館)参加者39名 講師<院長>参加<梅田, 渡邊, 佐藤千, 佐藤晶, 城戸, 佐藤順, 工藤由, 阿南, 工藤い, 宿利, 原井, 實崎, 指山>
7.9	新職員 佐藤順子さん(情報処理室)	10.13	不妊カウンセラー・体外受精コーディネーター養成講座(東京)参加<品夫, 上野>
7.11	玄関・受付拡張工事開始	10.15	高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
7.11	加藤レディースクリニック見学(東京)<大津, 平井>	10.21	不妊学会九州支部会(久留米)発表<城戸, 公文, 平井, 長木, 實崎, 柴田> 「男性因子以外の不妊原因に対するICSIの有効性」(城戸京子) 「前核期胚における形態的評価の検討」(公文麻美) 「妊娠後出産及び流産に至った周期の背景比較」(平井香里) 「hatching stage ETにおける臨床成績の検討」(長木美幸) 「不妊症患者に対するサポートのあり方」(實崎美奈) 「仕事と不妊治療を両立させている患者の現状について」(柴田令子)
7.12	第19回 日本受精着床学会(神奈川)発表<平井, 大津, 熊迫, 長木, 原井, 實崎> 参加<城戸, 院長> 「HFF99 Medium使用による臨床成績」(平井香里) 「FISH法を用いた再凍結胚の分析」(大津英子) 「不妊因子が卵管上皮細胞の培養に与える影響」(熊迫陽子) 「Hatching stage ETにおける臨床成績の検討」(長木美幸) 「IVFを受ける夫の精液検査結果での心理と現状」(原井淳子) 「減胎手術の経験が患者夫婦に及ぼす影響」(實崎美奈)	10.22	衆議院議員 釘宮馨氏(民主党)来院(不妊治療保険適用について、院長と会談)
7.15	第30回日本女性心身医学会学術集会(京都)発表<柴田>参加<品夫> 「腹腔鏡前後の患者の心理状態や精神的ストレス」(柴田令子)	10.27	第55回体外受精教室 参加者31名 参加<佐藤晶, 佐藤千, 友永, 佐藤順, 磯崎>
7.21	第52回体外受精教室 参加者17名 参加<佐藤晶, 松元, 工藤い, 磯崎>	11.8	日本不妊学会(東京)発表<城戸, 大津, 熊迫, 長木, 宿利, 實崎> 参加<友永, 上野, 院長> 「男性因子以外の周期におけるICSIの有効性」(城戸京子) 「FISH法を用いた再凍結胚の分析」(大津英子) 「不妊因子が卵管上皮細胞の培養に与える影響」(熊迫陽子) 「Hatching stage ETにおける臨床成績の検討」(長木美幸) 「IVFを受ける夫の精液検査結果での心理と現状」(宿利佳子) 「減胎手術の経験が患者夫婦に及ぼす影響」(實崎美奈)
7.28	第7回赤ちゃんが欲しい講座(大分トキハ会館)参加者51名 講師<院長> 参加<梅田, 越名, 佐藤順, 工藤由, 内藤, 佐藤千, 佐藤晶, 城戸, 齊高, 品夫, 原井, 指山, 上野>	11.9	日本不妊学会ブース展示(東京)<工藤, 佐藤順> 第1回エンブリオロジストのためのARMTフォーラム(東京) 発表<長木, 平井, 城戸>参加<友永> 「男性因子以外の周期におけるICSIの有効性」(城戸京子) 「新しく開発されたHFF99培液のヒト体外受精への臨床応用」(平井香里) 「Hatching stage ETにおける臨床成績の検討」(長木美幸)
8.3	医療ガス保安講習会(大分)参加<原井, 磯崎>	11.10	第12回ガーネットサークル 参加者13名 参加<松元, 宿利, 二宮, 原井, 實崎, 指山, 上野>
8.4	2001: An ART Odyssey Challenges and Strategies in Assisted Reproductive Technology (Hawaii) 発表<大津, 熊迫, 長木, 實崎>参加<院長> 「Chromosome analysis of human refrozen blastocysts following fluorescence in situ hybridization」(大津英子) 「Influence of the fallopian tube epithelial cells in vitro culture by infertile aspects」(熊迫陽子) 「The efficacy of hatching stage embryo transfer in multiple failures in in-vitro fertilization」(長木美幸) 「The influence on couples treated with multifetal pregnancy reduction」(實崎美奈)	11.11	COOK・IVFミニセミナー(福岡)参加<佐藤晶, 佐藤千, 公文>
8.4	セント・ルカ産婦人科職員旅行(北海道コース)参加<齊高, 柴田, 磯崎, 指山>	11.13	第1回セント・ルカミニセミナー(セント・ルカ多目的ホール) 講師 Brooks A keel 先生<カンサス大学教授> 通訳(大分医科大学医学部付属病院産科婦人科学教室 助教授 植原久司先生) 講師 Tammie Schalue 先生 通訳(大分医科大学産婦人科 河野康志先生) 座長 宮川 勇生 先生<大分医科大学 教授>
8.4	待合室・受付改装工事着工 院長室を受付として仮稼働	11.15	医療情報機器公開の広場(2001)(大分)ブース展示<佐藤順, 工藤由>
8.18	第8回セント・ルカセミナー懇親会(ホテル白菊)	11.17	56回体外受精教室 参加者11名 参加<佐藤晶, 友永, 工藤由, 工藤い, 齊高>
8.19	第8回セント・ルカセミナー(セント・ルカ多目的ホール) 「当院におけるHFF99の経験」(平井香里) 講師 久保春海 先生<東邦大学医学部教授> 講師 柳田 薫 先生<福島県立医科大学助教授> 講師 阿部宏之 先生<機械性能ペプチド研究所 主任研究員> 講師 中澤照章 先生<扶桑薬品工業(株) 研究開発センター> 座長 荒木康久 先生<高度生殖医療技術研究所> 座長 宮川勇生 先生<大分医科大学 産科婦人科 教授>	11.22	第32回大分市医師会医学会(アルメイダ)発表<城戸, 公文, 大津, 實崎, 柴田> 参加<上野, 院長> 「男性因子以外の不妊原因に対するICSIの有効性」(城戸京子) 「前核期胚における形態的評価の検討」(公文麻美) 「ヒト胚における再凍結は安全か?」(大津英子) 「不妊症患者に対するサポートのあり方」(實崎美奈) 「仕事と不妊治療を両立させている患者の現状について」(柴田令子)
8.20	高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導	11.25	The 17TH World Congress ON FERTILITY AND STERILITY IFFS2001 (Melbourne) 発表<院長>参加<公文, 品夫> 「The efficacy of hatching stage embryo transfer in multiple failures in in-vitro fertilization」(院長)
8.20	内田クリニック(島根)より村尾 明美先生研究室見学(8/20-22)	12.2	第56回産婦人科情報処理研究会in福岡 (福岡)参加<佐藤順, 工藤由>
8.25	第53回体外受精教室 参加者33名 参加<佐藤千, 佐藤晶, 佐藤順, 工藤由, 工藤い>	12.3	新職員 永石ヨシ子さん(看護部)
8.25	第11回ガーネットサークル OG2名 参加者8名 参加<梅田, 渡邊, 實崎, 磯崎, 上野>(セント・ルカ談話室)	12.8	JINN講演会~あげよう!不妊看護の可能性~(東京)参加<實崎, 柴田, 上野>
8.29	接遇教室1回目(アルメイダ) 参加<佐藤順, 梅田, 城戸, 平井, 大津, 熊迫, 長木, 磯崎, 指山>	12.10	新職員 篠田多加子さん(看護部)
9.1	新職員 友永 寛さん(研究室)	12.15	サークルフロム
9.3	高橋ウイメンズクリニック(福井)より山本真紀先生研究室見学(9/3-7)	12.22	57回体外受精教室
9.5	高橋ウイメンズクリニック(福井)より西修先生, 片山千代先生研究室見学	12.22	セント・ルカ産婦人科 忘年会(トキハ会館)
9.17	接遇教室2回目(アルメイダ)参加<佐藤順, 磯崎, 指山>	12.25	セント・ルカ産婦人科 クリスマス会(セント・ルカ多目的ホール)
9.18	接遇教室2回目(アルメイダ)参加<梅田, 越名, 渡邊>		
9.22	第54回体外受精教室 参加者25名 参加<佐藤順, 佐藤千, 佐藤晶, 友永, 小濱, 河口>		
9.28	衆議院議員 釘宮馨氏(民主党)来院(不妊治療保険適用について、院長と会談)		
10.5	第14回大分市医師会産婦人科・内分泌・不妊・代謝懇話会(大分) 参加<佐藤順, 工藤由, 梅田, 越名, 渡邊, 城戸, 大津, 平井, 熊迫, 友永, 松元, 関, 赤嶺, 宿利, 二宮, 阿南, 工藤い, 河口, 齊高, 品夫, 實崎, 柴田, 磯崎, 指山, 上野, 院長>		

編集後記

キール先生とタミー先生は、アメリカ合衆国のテロ事件約二ヶ月後に来日されました。大変な時期でしたので、本当に来て頂けるか心配でしたが、お二人とも始終にこやかに、やさしく講演をして下さいました。キール先生の趣味はダイビングで、実は今年のハワイの学会で院長と一緒に潜っているのです。外来にて、キール先生自ら撮影し、編集したビデオを放映中です。大きなマンタが印象的で、とても素敵です。来年の11月には、同じくアメリカから、サンチャゴ・ムネ先生(専門は染色体です)がいらっしゃる予定です。早く、テロ関連の問題が解決することを願いつつ、2001年が終わろうとしています。



カンガルーにエサをあげている先生

妊娠報告件数

(2001.7.1~2001.12.7)

体外受精、顕微授精等

54件

*

体外受精以外

82件

計 136件